佐賀県（佐賀市・鳥栖市・みやき町）の現地調査概要

・福岡県および佐賀県では、度重なる筑後川の氾濫により、大規模な水害が多発している。
・文献調査に基づき、過去の記録が残る地域において詳細情報を収集するため、佐賀県佐賀市・鳥栖市・みやき町で現地調査を実施した。

調査日：平成 27 年 2 月 13 日（金）
調査地点：佐賀県佐賀市・鳥栖市・みやき町

▲調査箇所図　　出典：国土地理院

【昭和 28 年筑後川水害の概要】

・福岡県および佐賀県下の大水害としては、明治 22(1889)年 7 月の筑後川氾濫がある。
・増水が昼間であったため、人的被害は少なかったが、家屋の流失・全半壊は 1200 余戸であった。その 60 数年後に発生した「昭和 28 年筑後川水害」はこれを上回る規模の水害であった。
・1953 年(昭和 28 年) 6 月 25 日～29 日の 5 日間に雨が降り続け、それが大きな被害の要因となった。筑後川流域内の被害状況は、死者 147 人、負傷者 4,999 人、被災人口約 54 万人である。

■昭和 28 年筑後川水害の被害

項　　目	内　　訳
死者	147 人
負傷者	4,999 人
被災人口	約 54 万人
流失・全半壊家屋棟数	12,801 棟

・各所で堤防の決壊が相次ぎ、流失・全半壊家屋 12,801 棟、破堤 26 箇所、決壊崩壊 58 箇所、護岸決壊 38 箇所と多くの被害が生じた。

【水害復旧記念碑：鳥栖市酒井東町】

・佐賀県鳥栖市酒井東町の宝満宮境内に、昭和 28 年の筑後川水害に係わる復旧碑が建っている。

・記念碑には、宝満川・秋光川・大木川の氾濫について、次のように記されている。

▲水害復旧記念碑の位置（鳥栖市酒井東町）

「水害復旧記念碑　昭和二十八年六月二五日より四日間に亘る大豪雨の為宝満川秋光川大木川が氾濫し堤防決潰六ヶ所農地潰滅六町壹反歩両区は全戸軒下浸水の未曽有の災害を蒙った国家補助及縣村当局の絶大なる援助と区民の一致団結不眠不休の努力により見事復旧工事を完成した仍って之を永久に記念するため此の碑を建立する

昭和三四年一月建立　　基里村長　髙島正雄

工事内容・被害面積　三太郎東壱町壱反六畝　三太郎西六反六畝　ハキヤ壱町壱反五畝　小柳七反七畝　総工事費弐百参萬壱千圓」

・記念碑には地上から 2.5 メートル付近の高さに、浸水最高水位線が刻まれている。

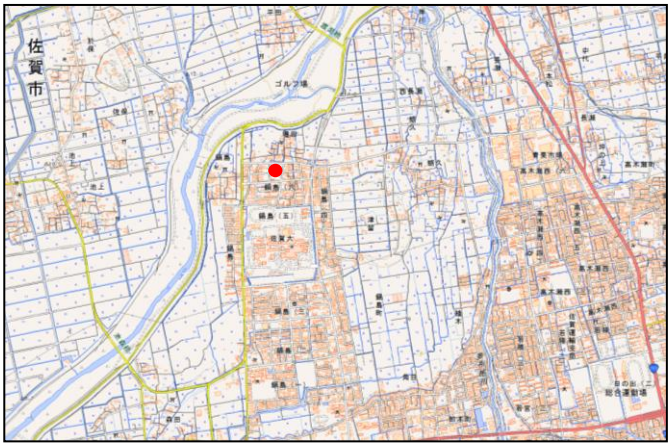
▲宝満宮境内の水害復旧記念碑（左側）

▲水害復旧記念碑の側面

【水害で埋まった鳥居：佐賀市鍋島町】

・佐賀県佐賀市鍋島町の天満宮境内には、昭和 28 年の筑後川水害で田んぼに埋まった鳥居が掘り起こされ、再度建設されている。

・下記写真の奥側に位置する石造りの鳥居が再建されたものである。



▲天満宮の位置（佐賀市鍋島町）

▲天満宮の鳥居（正面より天満宮方向）

▲天満宮の鳥居（天満宮方向より）

【茂安公築堤功績碑：みやき町東分】

・筑後川は流れが速く、鍋島・有馬藩が管理する両岸は大雨の度に大洪水に見舞われており、川が運ぶ肥沃な土壌を持ちながら、水害のために飢饉がおこる悪循環を繰り返してきた。

・この水害を防ぐために佐賀藩家老・成富兵庫茂安公は筑後川西岸（現在のみやき町千栗～坂口）に、全長 12km の堤防を作り上げた。堤防は補強のために川表には竹、川裏には杉が植えられ「杉土居」とも呼ばれた。この堤防は二重になっており、完成までに 12 年を費やしたと言われている。

・築堤以来 300 年近く破堤等が起らず、地域住民の生命と財産を守り続けた功績を讃える記念碑が、みやき町の筑後川沿い（国道 264 号沿い）に建立されている。

・この碑は昭和 10 年（1935 年）に、当時の北茂安村と南茂安村の関係村長及び小学校校長等、千栗土居の恩恵を受けた人々の発起で建てられた。

・「千栗堤防　千栗ヨリ坂口マデ蜿蜒（えんてい）三里　　茂安公慶長九年　　起工ヨリ十二ヶ年ノ歳月ヲ経テ成就セラレシモノナリ　　コノ功績ヲ永久ニ讃ヘン為　茲（ここ）ニコノ碑ヲ建築ス　　昭和十年十月十日」と記されている。

▲茂安公築堤功績碑

▲茂安公築堤功績碑の位置（みやき町東分）